

【全国実施分】学力調査結果の分析による具体的改善策 中学校3年

1 教科に関する調査

《平均正答率全国比》

R 6 年度（昨年度）結果	R 7 年度（今年度）結果
国 語	国 語
105.0	108.7
数 学	数 学
95.2	95.2
	理 科 ※IRTスコア
	545

	全国平均正答率を下回った問題（平均正答率の低い問題）	考えられる要因
国語	<p>① ちらしに「会場図」を加えた目的を説明したものとして適切なものを選択する問題。</p> <p>② ちらしの読み手に向けて、今年の美術展の工夫について伝える文章を書く問題。</p>	<p>① 会場図とその他の文章の関係は読み取れていたが、会場図から情報を正確に読み取り、伝えたいことを文章で表すことができていない。</p> <p>② 接続する語句・指示する語句の働きを理解して、分かりやすい文章にするときに生かして書くことができていない。説明的な文章の書き方を分析し、それを活用する力が十分でない。</p>
数学	<p>① 一次関数 <math>y=6x+5</math> について、<math>x</math> の増加量が 2 のときの <math>y</math> の増加量を求める問題</p> <p>② <math>3n</math> と <math>3n+3</math> の和を <math>2(3n+1)+1</math> と表した式から、連続する二つの 3 の倍数の和がどんな数であることを説明する問題</p>	<p>① <math>x</math> の増加量に対する <math>y</math> の増加量の意味と、その求め方の理解不足。</p> <p>② <math>2 \times \square + 1</math> の式の形になった場合、奇数を表していることの理解不足。</p>
理科	<p>① 電熱線を利用して水を温めるための電気回路について、直列と並列とで回路全体の抵抗が大きい装置や速く水が温まる装置を選択する問題</p> <p>② 塩素の元素記号を記述する問題</p>	<p>① オームの法則の理解不足、熱量はどのように決まるかをわかっていない。</p> <p>② 復習不足（教員・生徒ともに）</p>

## 2 生徒質問調査

※肯定的回答の割合（「学びに向かう力」「主体的・対話的で深い学び」に関連）

質問事項		R 6 年度結果	R 7 年度結果
教科の勉強は好きですか。	国語	93.8%	72.2%
	数学	31.3%	50.0%
	理科	75.0%	72.2%
教科の授業の内容はよく分かりますか。	国語	31.3%	94.4%
	数学	56.3%	66.6%
	理科		88.9%
学級の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができていますか。		81.3%	88.9%

## 3 具体的改善策

この取組を組織的に行えば学力が向上するのではないかと**仮説を立て検証する。**

- ① 9月から**高校入試まで**に取り組む（継続する）**学校の組織的な学力向上の取組の改善策**  
（焦点化・重点化1～2点）

○授業開始5分間のAIドリル（キュビナ）でつきたい力を明確にした弱点分野の配信、週2回のキュビナテストの取り組み
○「自分で考える内容の家庭学習」のメニューのヒントを与えて取り組ませる。週1回家庭学習調査をおこなう。（学習予定内容・学習予定時間）（学習実施内容・学習実施時間）

↑

（全職員で協議し、共通理解したものを入力）

※県調査で記入した改善策と同様でもよいが、必ず全教職員で再度共通理解をする。

- ② 9月から**高校入試まで**に取り組む、国語・数学における**授業改善・学習定着状況の把握・家庭学習・補充学習の改善策**

	授業改善	学習定着状況の把握	家庭学習・補充学習
国語	○文章だけでなく図表に注目し役割を分析する活動を積極的に取り入れる。 ○文章の評価のポイント等を示し、それを生かして学びあい学習を行い、分かりやすい文章の書き方の定着を目指す活動を行う。	○教科書の問題で練習をし、データベースの問題でさらに定着を図り、テスト問題で状況を把握する。	○放課後学習、家庭学習用課題（新研究等）を通じて弱点補強や繰り返し学習による定着を行う。学力テスト・実力テスト・高校入試過去問を通じて応用力・活用力の向上につなげる。
数学	○授業始めのキュビナ学習等を通じて、基礎・基本の定着。 ○基礎・基本事項を根拠として証明や説明等に活用する練習や学びあい学習を行う。	○教科書の問題やワーク、データベース、テスト問題で把握する。	○帯時間や放課後学習、家庭学習用課題（新研究、学力調査問題・実力テスト・高校入試過去問等）を通じて弱点補強・応用力・活用力の向上につなげる。
理科	○基本語句や元素記号を反復学習で身に付ける ○自然の事物現象の成り立ちや原理を理解し、説明する場を設ける。	○毎時間の振り返りに理科ノート左側の練習問題を行う。また、習得状況をキュビナ、課題で把握する。	○新研究・自主学習で基礎基本の定着、過去問やデータベースで活用問題の強化を行う。